

## I 研究の概要

### 1 研究主題

持続可能な社会をつくる力を育む学習活動の工夫  
～E いいね！ S 探ってみよう！ D どうするか！～

### 2 主題設定の理由

多摩市立連光寺小学校では平成22年度より、ユネスコが推進するESD（Education For Sustainable Development）をベースに研究を進めている。ESDに着目したのは、それまで行ってきた連光寺小学校の特色ある教育活動と、ESDで求められているものに共通点が多かったことにある。本校では、平成19年までの間10年近く、地域の特色を生活科や総合的な学習の時間の中で生かすための研究を進めてきた。その中で、地域の施設や人々と連携した学習活動を確立してきたが、この研究をESDへ発展させることが、本校の特色ある教育活動の充実につながると考えた。

平成22年度は、ESDとはどのような教育活動なのか、先行研究に着目して研究を進めた。その結果、地域の学習活動を「地域を学ぶ」学習から「地域で学び、生かす」学習と捉え直すことができた。平成23年度は、6年間を通して持続可能な社会の担い手を育てる意識をもつためには具体的な育ちの姿を明確にすることが必要と考え、「育ちの地図」を作成した。平成24年度は、「教科・地域・育てたい力」とのつながりにポイントをおき研究を進め、本校のESDは地域との連携が柱となっていることを再認識した。さらに、地域の教育資源を学校が積極的に活用し地域と共に児童を育てていくことによって、持続可能な社会の基礎をつくるという自覚をもった。平成25年度は東京都教育委員会言語能力向上推進校、26年度は東京都教育委員会言語能力向上拠点校として、ESDの基礎となる問題解決学習を支えるための言語活動を意識的に取り入れながら研究をすすめてきた。また、持続可能な社会の担い手に必要な力（身に付ける力）として「人・自然・社会に関心をもち、意欲的に関わる力」「他者と協力し、活動する力」「課題を見つめ、解決する力」「自分の思いや考えを伝える力」の4つの力を明確にし、問題解決学習を進めることで研究を深めてきた。

本年度は自分達の目指しているものを常にはっきりと確認できるように、サブテーマを「E いいね！ S 探ってみよう！ D どうするか！」とした。「E いいね！」には、地域での体験活動や探究活動の中で仲間や地域の人々と深くかかわり、「連光寺 いいね！」と実感をもった学びにするという意図が込められている。「S 探ってみよう」は問題解決学習を示しているが、「E いいね！」から自分たちのこととして生まれる課題追究であることを意識している。そして「D どうするか！」は、こうした学習が未来志向のものであることを示す言葉である。学習が教室や地域だけで終わるのではなく、広く社会に参画していく方向性をもった学びにしていくことを意図している。略語のESDに、これまでの研究成果で得た内容を重ね、サブテーマを考えた。

以上の理由により、研究テーマ及びサブテーマを設定した。

### 3 多摩市立連光寺小学校 平成27年度 校内研究構想図

教育目標 考えてやりぬく子・明るく思いやりのある子・たくましくじょうぶな子

#### 今日の教育状況

- 知識基盤社会化、グローバル化の時代の到来
- 確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことを目標とした学習指導要領の実施
- 2006年～2014年 ESDの10年

多摩市教育委員会 ESDキャッチフレーズ  
2050年の大人づくり

#### 本校 児童の実態

- 地域の人・自然・社会を生かした特色ある教育活動を通して、学ぶ意欲や学び方を身に付けつつある。
- 人の話は共感し素直に聞くが、自分の考えを、皆の前で伝えていくことに課題が見られる。
- 教師の呼びかけには素直に活動するが、自ら判断し、行動することはまだ課題が残る。

#### ESDの視点に立った学習指導の目標

持続可能な社会づくりに向けて、課題を見つけ出し、それを解決するために自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動しよりよく問題を解決する能力・態度を身に付ける。

### 研究主題

持続可能な社会をつくる力を育む学習活動の工夫  
～E いいね！ S 探ってみよう！ D どうするか！～

#### 4つの身に付ける力

- 【ア】人・自然・社会に関心を持ち、意欲的に関わる力
- 【イ】他者と協力し、活動する力
- 【ウ】課題を見つけ、解決する力
- 【エ】自分の思いや考えを伝える力

・ESDカレンダー

・育ちの地図

・地域、保護者との連携

#### 低学年テーマ

自分の思いや気付きをすすんで伝えようとする学習活動の工夫

#### 中学年テーマ

自分の思いを大切にしながらかわり、課題を追究する学習活動の工夫

#### 高学年テーマ

自分の考えをもって伝え合い、深めたり高めたりできる学習活動の工夫

#### 研究の仮説

地域の人・自然・社会を生かした連光寺小学校の特色ある教育活動を行う中で、意欲をもって（Eいいね）探究活動を行い（S探ってみよう）考えたことを発信・行動する（Dどうするか）ための学習活動を工夫することを通して、児童に持続可能な社会をつくる4つの力が身に付き、持続可能な社会の担い手を育てることにつなげることができる。

#### 研究の方法

- 講師による講義・研修
- 授業研究による取り組みの検証
- 単元指導計画や年間指導計画の作成

#### 低学年

1. 取り組む教科・領域  
生活科・関連する教科
2. 具体的な取り組み  
栽培活動や地域の施設や人・自然とかかわる活動を中心とした学習活動をESDの視点で行う。

#### 中学年

1. 取り組む教科・領域  
総合的な学習の時間・関連する教科
2. 具体的な取り組み  
3年「連光寺調査隊 わたしたちの連光寺！」4年「川は自然の宝箱」を中心とした学習活動をESDの視点で行う。

#### 高学年

1. 取り組む教科・領域  
総合的な学習の時間・関連する教科
2. 具体的な取り組み  
5年「連光寺SATOYAMAプロジェクト」、6年「だれにも優しいまち」等を中心とした学習活動をESDの視点で行う。

#### ESDを支える言語活動の充実

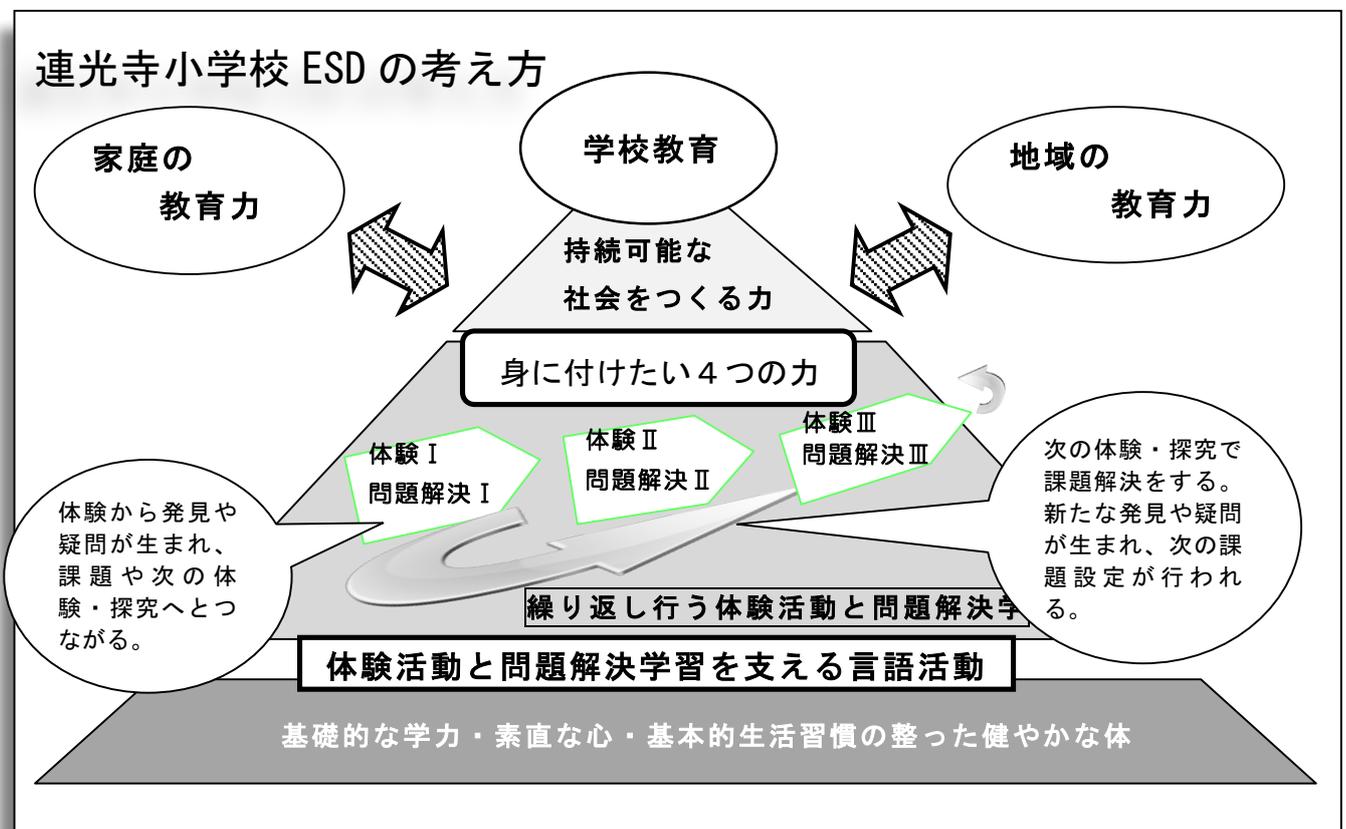
共通体験（ワークシートの活用、情報の交換等）課題の設定・追究・考察（ウェビングマッピング・ドーナツチャート等思考のツールの活用、書く・伝える・話し合う活動、インタビュー、学級の枠を超えた同学年や異学年の交流、地域・保護者・専門家との交流、学校図書館を活用した調べ学習、ICTを活用した協働学習等）発信・行動（グループ発表・地域保護者への発表・市内の学校との交流・ユネスコスクール国内・海外とのWEB交流、家庭・地域での実践行動等）

#### 4 研究の視点

「E S D」をベースとした特色ある教育活動と、言語活動の充実を目指し、次の研究を行う。

- (1) ユネスコや文部科学省が推進する「E S D」や、ユネスコスクールの実践に学び、「連光寺小E S D」①を構築していく。
- (2) 「持続可能な社会の担い手となるために必要な4つの力」②を身に付けるための学習活動を工夫する。
- (3) 「育ちの地図」③に沿った取り組みを行い、検討する。
- (4) 「ふるさとで学び、生かす」④ための教材開発や学習活動の工夫を行う。
- (5) 「E S D」と「言語活動」の関わり⑤について、学習活動を工夫し、検証していく。
- (6) 以上の視点を押さえた「単元学習計画」の作成⑥と授業研究を、行う。

##### ① 「連光寺小E S D」



児童は、地域の教育力・家庭の教育力・学校の教育力の中で育まれている。私たちの担っているのは、学校教育の部分であるが、「持続可能な社会を作る力」は、家庭の教育力・地域の教育力と深く結び付いて育てていかなければならないと考えている。そこで連光寺小では、E S Dを進めるに当たって、地域との関わりを重視し、保護者の方も参加して学習活動を進めている。

本校ではE S Dについて、基礎的な学力・素直な心・基本的生活習慣の整った健やかな体を土台とし、地域の中での豊かな体験活動と問題解決学習を繰り返し行う中で、意欲の向上や・思考力・判断力・表現力を育み、持続可能な社会を作る力(本校で考える4つの力)を身に付けることができ、広く未来社会に参画していく責任性・行動力につながると考えている。

中心となる体験活動と問題解決学習を支えるのは、**言語活動**である。言語活動はE S Dの学びの場だけではなく、家庭・地域・学校の言語生活と結びつき、日常の学習活動や生活の中でも充実させていくことが必要であると考えている。

また、E S Dの学びには、長期の見通しをもった学習計画が必要であると考え、6年間、さらに卒業後まで見通した「育ちの地図」・各学年で育む力を見通した単元計画を見直し、作成した。

## ② 「持続可能な社会の担い手となるために必要な4つの力」

E S Dとは、この地球で生きていくことを困難にするような環境、貧困、人権、平和、開発といった様々に絡み合った問題について、主体的に捉え、解決に向けて考え発信行動していく人材を育てる教育である。ユネスコでは、持続可能なE S D社会の担い手を育むため、「人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと」「他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、『関わり』『つながり』を尊重できる個人を育むこと」の2つの観点が必要だと言っている。

本校では、国立教育政策研究所の示す「E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」の例示やOECDがグローバル時代を生きる時代を定義した「キー・コンピテンシー」を参考に、持続可能な社会の担い手となるための4つの力を、総合的な学習の時間の評価規準としてE S Dの視点で整理し直した。

[本校の考える、持続可能な社会の担い手となるために必要な4つの力]

【ア】 人・自然・社会に関心をもち、意欲的にかかわる力

【イ】 他者と協力し、活動する力

【ウ】 課題を見つめ、解決する力

【エ】 自分の思いや考えを伝える力

連光寺小E S Dで育てる4つの力 ～平成25年度に整理されたもの～	OECD キー・コンピテンシー	E S Dの視点にたった学習指導で重視する能力・態度（例）国立教育政策研究所
【ア】 人・自然・社会に関心をもち、意欲的にかかわる力	自律的に活動する	つながりを尊重する態度 進んで参加する態度
【イ】 他者と協力し、活動する力	異質な集団で 交流する	コミュニケーションを行う力 他者と協力する態度
【ウ】 課題を見つめ、解決する力	相互作用的に 道具を用いる	批判的に考える力 未来を予測して計画を立てる力 多面的、総合的に考える力
【エ】 自分の思いや考えを伝える力		

連光寺小E S Dでは、これらの4つの力を、実践を通して育てていく。

## ③ 「育ちの地図」

児童の6年間の育ちや将来の姿を具体的にイメージし、学習を進めるために「育ちの地図」を作成している。平成23年度から作成しているが、毎年見直しを続け、より見通しやつながりをもった「育ちの地図」となってきた。

「育ちの地図」から見ると、関わる学習対象が徐々に広がり、卒業時には様々な視点をもったグローバルなものに至る。また、問題解決学習の過程も発達段階に合わせて発展し、身に付ける力も高まっていく様子がわかると考えた。

### 【連光寺小学校 育ちの地図】

学年	中心となる学習单元	育てたい児童の姿	【4つの力】
1年	・「しぜんともだち」になる。 自然・地域・身の回りの人々に関心をもって関わる	①季節の移り変わりに関心を持ち、自然に関わったり、自然のもので遊んだりすることを楽しむ。 ②自然・地域・人との関わりの中で、四季の移り変わり、人の営み、自分と地域や人々との関わりなどに気付く。 ③自分の思いや願いを自分なりの言葉で伝えようとする。	【ア】 【ア】 【エ】
2年	・「まちたんけん」 自然・地域・身の回りの人々に関心をもって関わる	①四季の移り変わりに関心を持ち、進んで栽培活動をしたり、自然に関わったり、自然のもので遊んだりすることを楽しむ。 ②自然・地域・人との関わりの中で、四季の移り変わり、人の営み、自分と地域や人々との関わりなどに気付き、進んで活動につなげていく。 ③自分の思いや願いを伝える相手を意識して、言葉で伝えようとする。	【ア】 【ア】 【エ】
3年	「連光寺調査隊 わたしたちの連光寺」 連光寺の自然や人と関わり、課題を設定し追究する	①地域の自然や社会（商店・施設等）に関心を持ち、地域を好きになる。 ②地域の方や友だちと協力しながら、工夫して活動を進めることができる。 ③自然の体験を通し見つけた疑問や発見を中心に課題を決め調べたり、地域の人々と仲良くなるための計画を立て、体験活動を通して探究したりする。 ④地域での調査・体験活動を通して、学んだこと考えたことをまとめ、伝えようとする。	【ア】 【イ】 【ウ】 【エ】
4年	「川は自然の宝物」 多摩川を中心に自然や人と関わり、生態系・多様性について課題を設定し追究する。	①多摩川について興味・関心を持ち、意欲的に体験活動や課題追究を行うことができる。 ②地域の方々と積極的に関わり、仲間と協力しながら体験活動や課題追究をすすめることができる。 ③多摩川の生態系や多様性に気付き、自分と自然のかかわりを考えることができる。 ④調べて解ったことや考えたことを自分の言葉でまとめ、相手を意識しながら伝えることができる。	【アウ】 【イウ】 【アウ】 【ウエ】
5年	「連光寺 SATOYAMA プロジェクト」 地域の里山を中心に生態系・多様性・共生について課題を設定し追究し、学んだことを発信する。	①地域の里山について興味をもって自分の課題を設定し、意欲的に体験活動を行い、課題追究をすることができる。 ②仲間と協力したり、専門家と関わったりしながら、地域の里山について調査活動を行うことができる。 ③情報収集したことを活かして、地域の里山の生態系や生物の多様性に気付くことができる。 ④自分たちと自然の「共生」について自分なりの考えをまとめ、相手に分かりやすく伝えることができる。	【アウ】 【イ】 【ウ】 【エ】
6年	「誰にも優しい未来」 多様な視点で共生・社会について課題を設定し追究し、学んだことを発信する。	①地域の歴史や我が国のエネルギーや福祉についての在り方に興味をもって課題を設定し、課題追究をすることができる。 ②仲間と協力しながら地域の施設を利用したり専門家と関わったりしながら調査活動を行うことができる。 ③情報収集したことを活かして、よりよい未来や社会のためにできることを考える。 ④調べて分かったことや自分なりに考えたことなどをまとめ、分かりやすく伝えることができる。	【アウ】 【アイ】 【アウ】 【エ】

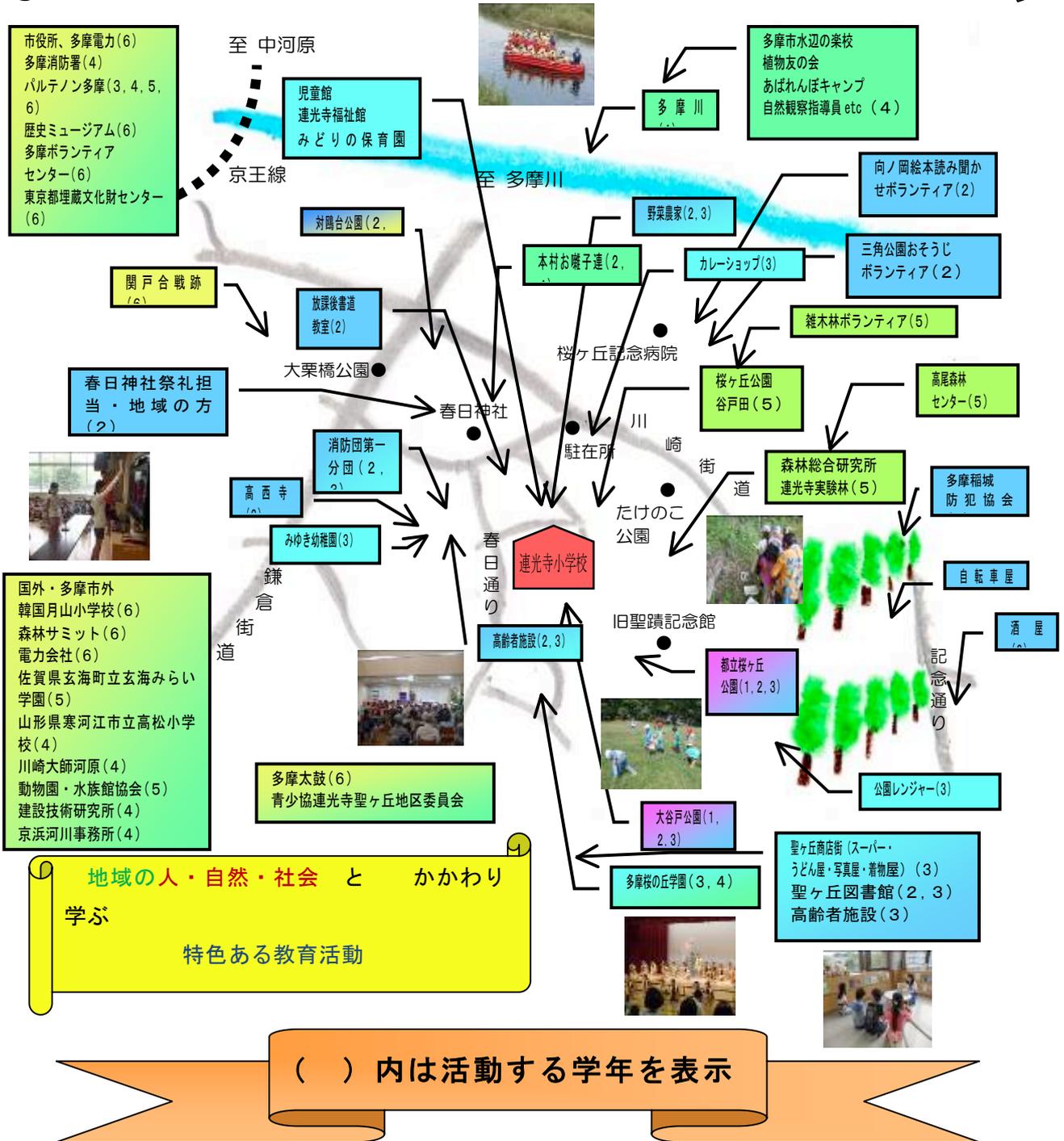
姿卒業時の	○地域への愛着をもち、地域の一員としての自覚をもっている。【アイ】 ○環境をよりよくしようとする思いをもち、身近なことから実践しようとする事ができる。【アウ】 ○課題に気付き、それを解決するための学び方を身に付け、生かすことができる。【ウ】 ○互いの意見を尊重し合い、協働しながら、解決しようとする事ができる。【エ】
の将来の姿	○よりよい社会を人と関わりながら作っていかうとする。【アイエ】 ○困難にあたった時、人との関わりをもって解決していくことができる。【イウエ】

#### ④「ふるさとで学び、生かす」

本校のESDの特色は、地域との関わりである。本校では、15年前から地域の特色を生かし、地域の施設や人々と連携した学習活動を行っている。その中で地域連携も積み重ねられ、学校の教職員よりも長く、連光寺の児童の育ちを見てくださっている方々がいる。児童が学びに来ることを楽しみに待っている地域の商店や施設もあり、児童の力を育てるためのプログラムを共に考えてくださる方も多い。また、学習中や卒業後の児童の意識調査を行っている地域の専門家もいる。保護者もこれらの体験学習に参加してもらっている。見守りの立場だけでなく、保護者自身が地域での体験活動に感動し、地域を見直すきっかけとなっている。こうした地域と深く結びついた体験活動と問題解決学習を繰り返す中で、児童は「地域で生活している自分」を再発見し、主体的に「自分事」として様々な課題をとらえ、持続可能な社会の担い手としての力を付けていくと考えている。

学年	地 域・その他の 連 携 先
1年	都立桜ヶ丘公園 市立大谷戸公園 みゆき幼稚園 みどりの保育園
2年	消防団第1分団 連光寺駐在所 旧聖蹟記念館 三角公園清掃ボランティア どんぐり見守りボランティア 春日神社お囃子担当・お祭り担当 高西寺 近隣野菜農家 書道の先生 高齢者福祉施設 自転車屋 酒店 みゆき川公園を作った方とボランティアの方 聖の郷（高齢者福祉施設）
3年	都立桜ヶ丘公園事務所 都立桜ヶ丘公園レンジャー パルテノン多摩学芸員 連光寺児童館 連光寺福祉館 みゆき幼稚園 みどりの保育園 カレーショップ 写真館 うどん屋 着物屋 聖ヶ丘図書館 スーパーマーケット 高齢者福祉施設
4年	多摩市水辺の楽校 あぼれんぼキャンプ 東京農工大学 (株)建設技術研究所 パルテノン多摩学芸員 大師河原干潟館 京浜河川事務所 河川財団
5年	森林総合研究所多摩森林科学園 東京都動物園水族館協会（井の頭自然文化園、葛西臨海水族園、上野動物園） 桜ヶ丘公園雑木林ボランティア 高尾山森林保護員 写真家 高尾森林センター 佐賀県玄海町立玄海みらい学園
6年	旧富澤家 市役所教育振興課環境緑地課 旧聖蹟記念館 都立埋蔵文化財センター 韓国月山小学校 エコプロダクツ 電力関係会社

# 6年間を通して繰り返し地域とかかわるプログラム



⑤ 「言語活動の充実」

本校は、言語能力向上拠点校として、以下の4つの課題に取り組んできた。

重点課題A	言語による発信力を高める
重点課題B	美しい日本語を育てる(正しい日本語を使う)
共通課題ア	豊かな読書生活を育む学校づくりの推進
共通課題イ	他校や保護者・地域等への発信

ア 「E S D」と「言語活動」の関わり

「E S D」を充実させるためのツールとして「言語活動」は不可欠である。本ではE S Dに取り組む中で、【重点課題A】【共通課題イ】を重視している。【重点課題B】については、情報交換時に自分の思いや考えを正しく相手に伝えることを意識的に行っている。

【問題解決学習の過程と言語活動】

共通体験	地域の方々や専門家の方と交流する。	【重点課題B】
	ワークシートに記入し、振り返る。	【重点課題A】
	仲間に自分の活動や感想を伝える。	【重点課題A】
課題をつかむ	イメージマップやドーナツチャートなどを用いて、自分の考えを整理する。	【重点課題A】
	自分の考えを伝え、交流し合う中で、テーマを見つめる。	【重点課題A】
	活動や調査の計画を立てるために話し合う。	【重点課題A】
探究する	仲間や地域、専門家の方々に聞いて調査探究する。	【重点課題B】
	ワークシートに記入し、活動や調査を記録する。	【重点課題A】
	図書やインターネット資料を活用して追究する。	【共通課題ア】
	仲間とICTを活用し、協働して深める。	【重点課題A】
	ポートフォリオを作成し、学習を振り返る。	【重点課題A】
	仲間に活動や調査の様子を報告する。	【重点課題A】
まとめる	これまでの活動を振り返り、作品や報告書を作成する。	【重点課題A】
	相手を意識し、工夫してまとめる。	【重点課題A】
	発表場面を想定して、発表内容や方法を考える。	【重点課題A】
発信・行動する	協力してくださった方々にお礼の手紙を出す。	【重点課題B】
	仲間や他学年の児童、保護者地域の方へ学んだことを発表する。	【共通課題イ】
	WEB会議システムを使ってユネスコスクールの友達(他校・佐賀県玄海町立玄海みらい学園・韓国 月山小学校)と交流する。	【共通課題イ】
	地域の一員として行動するために、自分のできることを考える。	【共通課題イ】
	他者からの意見や感想を参考に自分の考えを深め、未来につなげる。	【共通課題イ】

言語活動を通してE S Dの学びがあり、その中で「思考力・判断力・表現力等」が育成され、未来につながる生きる力を育むことができると考えている。

## イ 協働学習の中心にある「言語活動」

E S Dの学習を進める中で、児童の学びには、個々が目的をもって仲間と交流し合い、グループとしての目標を達成していく協働学習の過程が多くある。「言語活動」は、こうした協働学習の中核をなすものである。

### 協働学習を支える言語活動の姿



体験活動（共通の学び）

ステップ1  
書く



文章や図に表現し、自分の考えをはっきりさせる（個人の学び）

ステップ2  
伝え合う



自分たちの分かったことや考えを仲間と伝え合う（グループの交流）

ステップ3  
話し合う



グループで、目標に沿って話し合い、グループの考えをまとめる。（協働の学び）

他にも、ICTのタブレットPCを用いての学びを交流、地域の方へのインタビューや自然観察から情報得たこと・気付いたことの記録と情報交換、WEB交流や発表等、人とつながる活動がたくさんある。いずれの活動でも「言語活動」はその中心にあり、大変重要な活動となっている。

またいずれの場合も、学習の主体は児童であり、他者との協働で進められていく。アクティブラーニングの視点から見ても「言語活動」は重要な役割を果たしているといえる。

ウ 言語能力を伸ばすための言語環境と日常的な取り組み

重点課題A	言語による発信力を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科・領域等様々な学習活動の中での学習活動の工夫</li> <li>・行事(学芸会・連小祭り等)の中での工夫</li> </ul>
重点課題B	美しい日本語を育てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動 ・正しく伝える</li> <li>・縦割り班活動での交流</li> <li>・詩、短歌、俳句等の暗唱</li> <li>・全校四季の俳句作りの取り組み</li> </ul>
共通課題ア	豊かな読書生活を育む 学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心を育む読書活動 読書旬間 並行読書 読書ノートを活用 全校読み聞かせ お話会の実施 朝読書(週1回以上) ビブリオバトル アニメーション等の取り組み 本校のお薦めの本リスト作成等</li> <li>・本や資料を使った調べ学習の取り組み</li> <li>・学校図書館司書を活用した読書環境の充実</li> </ul>
共通課題イ	他校や保護者・地域等への発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事等での発信の工夫</li> <li>・家庭での交流</li> </ul>

このように、日常的な学習活動の中でも、幅広い言語活動が行われている。特に教科の中では、国語科で身に付けた言語活動の基礎となる「読む・書く・話し合う力」を活用して、問題解決型の学習を行い、思考力、判断力、表現力等を養っている。

⑥ 「単元学習計画」の作成

毎年、ESDカレンダーと生活科・総合的な学習の時間の年間学習指導計画を作成しているが、今年はさらにその中で、大きな柱となる単元の学習計画を見直した。長い時間をかけて単元学習に取り組むため、年間を通した見通しが必要だと考えたからである。

児童に身に付けさせたい4つの力を学習のどの過程でどのように付けていくのか、地域との連携はどのように行っていくのか、他教科とはどのようにつながっているのかを明記した単元学習計画を作成することで、見通しをもって実践に取り組めると考えた。(IV参考資料参照)

## 5 研究の方法

### (1) 組織

- ① 分科会を低学年・中学年・高学年とする。
- ② 研究部は、各ブロックから2名、専科から2名で構成する。

### (2) 方法

- ① 聖徳大学大学院教職研究科教授 廣嶋憲一郎先生より年間を通じて指導を受ける。
- ② 各学年、授業研究に取り組む。
- ③ 各学年、単元学習計画の作成に取り組む。
- ④ 授業研究、研究協議による検討を行う。
- ⑤ 他校の研究発表や実践に学ぶ。

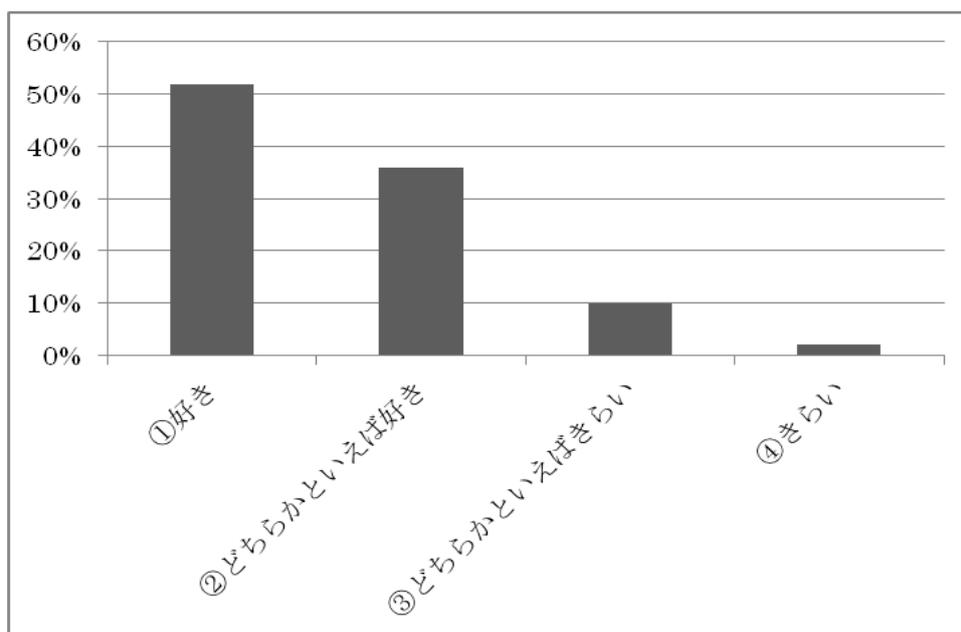
## 6 研究経過

4月7日	研究全体会	27年度の研究の取り組みと、サブテーマの確認
5月11日	分科会	分科会のテーマ確認 各分科会研究の進め方
6月10日	研究授業	5年「連光寺SATOYAMAプロジェクト」 ～わたしと雑木林・谷戸田の恵～ 講師 廣嶋 憲一郎 先生（聖徳大学大学院教授） 授業者 平木 知也 高橋 伸幸
7月15日	研究授業	1年「しぜんとともだちになろう」 講師 廣嶋 憲一郎 先生（聖徳大学大学院教授） 授業者 鎌田 由美 大寫 えり子
9月8日	研究授業	4年「川は自然の宝箱」 講師 廣嶋 憲一郎 先生（聖徳大学大学院教授） 授業者 松田 一枝 吉永 みどり
10月2日	研究授業	6年「誰にも優しい未来」～エネルギー～ 講師 廣嶋 憲一郎 先生（聖徳大学大学院教授） 授業者 藤本 珠美子 海老原 司
10月13日	研究授業	3年「連光寺調査隊 わたしたちの連光寺」 ～トライトライ！自分たちにできること～ 講師 廣嶋 憲一郎 先生（聖徳大学大学院教授） 授業者 中島 直文 若林 真砂子
10月28日	研究全体会	研究発表に向けて
11月10日	学年分科会	研究発表に向けて 講師 廣嶋 憲一郎 先生（聖徳大学大学院教授）
12月9日	研究授業	2年「まちたんけん」 講師 廣嶋 憲一郎 先生（聖徳大学大学院教授） 授業者 山田 美智代 川添鷹季代
1月15日	研究全体会	研究発表に向けて

1月22日	研究発表会	東京都教育委員会 言語能力向上拠点校 研究発表会 講演 廣嶋 憲一郎 先生（聖徳大学大学院教授）
1月27日	研究全体会	今年度の振り返り 28年度のESDについて
3月16日	研究全体会	研究全体会 28年度の研究について

## 7 児童の実態（1学期 児童の意識調査より）

（1）生活科・総合的な学習の時間 の勉強は好きですか。



（2）何をするのが好きですか。（生活科）

アンケート項目(抜粋)	合計
ア 公園や町を探検すること	70%
イ 友達と話し合うこと	70%
ウ 生き物を探したりとったりして、お世話をすること	60%
エ 自分が発表すること	37%

連光寺小ESDで育てたい4つの力 ア関心 イ協働 ウ課題解決 エ伝える に関わる項目

(3)どんな活動が好きですか。(総合的な学習の時間)

アンケート項目(抜粋)	合計
ア 体験すること	82%
ア 専門家や地域の人に聞いて調べること	23%
イ 友達と話し合うこと	57%
イ 友達と一緒に調べること	77%
ウ 自分が調べたいことを調べるところ	55%
ウ 本で調べること	24%
エ 考えたことを文章にすること	19%
エ 自分が発表すること	29%
エ 友達の発表を聞くこと	41%

連光寺小E S Dで育てたい4つの力 ア関心 イ協働 ウ課題解決 エ伝える に関わる項目

上記(1)(2)(3)は1学期に調査した生活科・総合的な学習の時間に対する児童の意識調査である。(1)で、生活科・総合的な学習の時間が「好き・どちらかといえば好き」と答えている児童は約9割であり、生活科・総合的な学習の時間に楽しんで取り組んでいることが分かる。

(2)(3)の活動内容から見ると、実際に体験したり、友達と一緒に調べたりすることは多くの児童が好んでいることが分かった。今年度もこれらの活動を大切に、学習意欲に結び付けたいと考えた。一方、本や地域の専門家の方から調べることを、調べたことを文章にまとめることや発表することには、苦手意識が見られた。特に、中高学年では、その傾向は顕著に表れていた。そこで、**今年度は、言語活動向上拠点校の研究をとおして**、これらの活動を学習の中に繰り返し位置づけ、力を付けて、苦手意識を減らしていきたいと考えた。